

第78回 一高祭 一人一人の青春が輝く

甲府一高新聞

一高祭号

発行所
甲府一高新聞部
甲府市美咲二丁目13-44

総合優勝 黄ブロック 全力の軌跡

第78回一高祭が6月17日から19日の三日間にかけて「青春第二」というテーマのもと開催された。クラス数の減少に伴い今年より一ブロック少ない6ブロックとなったが、あがりさの祭の復活など、YCC県民文化ホール、本校、緑ヶ丘体育館は梅雨晴れの曇りに引けを取らない熱気に包まれた。

昨年引き継ぎ、今年の一高祭はYCC県民文化ホールにて幕を開けた。始めに校長先生が今回の学園祭に向けた思いを語り、退場時に今年話題となった「イイじゃん」ダンスを披露したことで会場からは歓声が上がった。注目が舞台上に集まったところで、今年も生徒会による気合の入ったブロック長達の紹介動画が流れた。各ブロック長の魅力

が引き立った「デオが終わると客席の後ろ側からスポットライトと共にブロック長達が登場し、盛大な拍手を受けながら舞台の方へと駆け抜けていった。ステージの上ではブロック長と生徒会長が一人ずつ各ブロックの士気を高めていき、生徒の盛り上がりが高潮に向かうと同時に「第78回一高祭の開催が宣言された。」

文化祭

一高祭一日目では、開祭式が終わると吹奏楽部、弦学部、箏曲部、ダンス部、ア・カペラ部の順番で文化部の発表が行われた。華やかで美しいパフォーマンスの数々に観客は大いに盛り上がった。

その後のクラス発表では、1年生が「楽しいだけじゃだめですか」2年生が「PSYCHO」3年生が「青春のエッセンス」というテーマに沿って、それぞれのクラスらしさが際立つ劇を繰り広げた。1年生の中で一位を獲得した組「ボケモン」の神隠しでは、ポケモンになってしまった先生を人間に戻すという独特かつ完成度の高い世界観を見た。同じく1位に輝いた2年6組の「0」

【意気込みを語るブロック長達】



「The Void Number」無の果て、破壊の足音」は、いらない存在なんていないということを主題に置いており、「0」などの登場人物の圧倒的な演技力と動画面のクオリティの高さが光っ

クラス企画

一高祭二日目は、本校にてクラス企画が行われた。初めての一高祭となった1年生は、6組の「転生したら〇〇だった件」が人気を博していた。最初に選ぶカードにはその人が「転生した」人生が記されており、それを元に出される謎を解きつつゴールを目指した。2年生は、6組の「呪怨屋敷」が特に人気だった。遺体で発見された少女が大切にしていたけしを、元あった廃墟に返すために向かうストーリーで、繰り出される数々の仕掛けが暑さをも吹き飛ばすような恐怖を演出していた。

一高祭二日目は、本校にてクラス企画が行われた。初めての一高祭となった1

年生は、どの企画にも生徒や保護者で長蛇の列ができていた。6組の「ドンブラコ」揺れる恋心の船旅」は「桃太郎」をベースにしたコヒーカップで、乗客が桃太郎の恋路を左右するストーリー性と、高速回転の爽快感で企画1位となった。5組の「STAR TOURS」も人気を集めており、本物さながらのレベルが高い装飾とともに、上下に回転するシーソーの浮遊感を楽しめた。どのクラスも自らの個性を生かし、訪れた人々を全力で楽しませていた。



【2年6組のワンシーン】



【3年6組のアトラクションを楽しむ生徒】

体育祭

一高祭最終日は、緑が丘スポーツ公園で体育祭が行われた。当日は甲府市の最高気温が36度を超え、競技の中止が心配されたが、競技の実施された。競技は大綱から始まり、障害物競走、借りびと競走、ブロック対抗リレーの順に行われた。大綱ではブロック全員で跳んだ数を数え、制限時間のなかで良い記録が出ると客席からは拍手が送られた。障害物競走の奇数走者は縄跳びとドリブルを行い、縄

増え、とても充実した日々でした。初めてブロック全体をまとめる難しさもありましたが、終わってみると本音がでてきた。今年の一年生が一高祭の思い出になりました。本当にありがとうございました。

も、みんなの笑顔を見ると全てが報われました。たくさんさんの協力をありがとうございました。

辻優衣(紫ブロック)

ブロック長として全体を引っ張る立場になり、不安や思うようにいかないこともありました。最後にはそれ以上のやりがいや達成感を得ることができました。また、

矢島夕介(黄ブロック)

これが僕がブロック長になった一番の理由だと思っています。しかし、学園祭が始まるまでこんなことを忘れるくらい全てが楽しい時間でした。ネタは置いといて、ブロック長になった当初は盛り上げられるのかなり不安な気持ちでいっぱいでしたが、クラスメイトにその不安を悟られないよう、ダンスの練習などを必死にしました。本番でみんなが盛り上がりかけた時、ブロック長をやったよかったと思

ブロック長より

じられた高校最後、最高の学園祭でした。紫ブロックのみんなについてくれてありがとうございました。愛してる！

若澤謙吾(青ブロック)

学園祭お疲れ様でした皆さんと学祭ができてとても楽しかったです。当日盛り

手塚太一(桃ブロック)
1年生へ、分らないことが多かったと思いますが、理事や一寒を中心にまとまっていた、1年生とは思えないくらい驚きました。次はさらに楽しくなると思うから今年以上に楽しんでください。2年生へ、一番明るくて助かりました。来年はより良い先輩になると思うから最後の学園祭を一生の思い出にしてください。3年生へ、さすが3年生と言わんばかりの経験値と団結力でした。最後の学園祭を皆と一生の思い出に残せたこと、本当に誇りです。誰一人欠けることなく、3位という結果以上に楽しい思い出を作れました。ピンクブロックの力半端ないって！あがりさとうございました。

佐野友哉(橙ブロック)

テスト後に本格的に動き出し、あっという間に当日を迎えました。ダンス練習や動画編集を通してブロック長や生徒会長と過ごす時間が

走りだす生徒もいた。最終種目のブロック対抗リレーでは、第一走者が号砲のピストルで撃たれたようにひっくり返ったり、コースと逆方向に走りだしたりして他の生徒を楽しませた。各ブロックで工夫が凝らされた走順で、ブロック長や同ブロックの選手が走者と一緒に走る場面や、走者が他の生徒を抜く場面では応援の勢いも一層増していた。全ての競技が終了した後に行われた体育祭閉会式では、熱中症対策のためブロック長のパフォーマンスが前倒しで行われた。

上がるか不安でしたが、皆さんののおかげでとても盛り上がる事ができました。三年間のなかで一番楽しい学祭でした。また、ブロック長は1年生の頃からの憧れだったのでこの経験はとても貴重なものになりました。学祭を通して僕の隣は埋まりませんが、皆さんの記憶が学祭の楽しかった思い出で埋めつくされていることを願っています。

平井康郎(赤ブロック)

学園祭でブロック長を任された、最初は自分ではある不安だった。しかし、準備を進める中で、仲間が真剣に取り組む姿を見て気持ちが変わっていった。うまくいかない場面もあったが、みんなが支え合っている。あるブロックになったと思う。全力で取り組んだからこそ、終わったときの達成感は大きく、この経験はこれからの自分にとって大きな支えになると感じている。

【結果一覧】

総合順位	1位	2位	3位
ブロック	黄	オレンジ	ピンク
1年	6組	3組	5組
2年	6組	2組	1組
3年	5・6組	-	1組
クラス発表			
1年	2組	3組	5組
2年	6組	2組	5組
3年	3組	5組	1組
クラス企画			
1年	6組	5組	2組
2年	2・6組	-	3組
3年	6組	5組	1組
体育祭			
1年	3・4・6組	-	-
2年	1・6組	-	2・4組
3年	1・6組	-	5組



【立ち上がって喜びを分かち合う生徒】

閉祭式・結果

三日間にわたって行われた一高祭閉祭式が本校体育館で行われた。全校生徒が一堂に会した会場は、開始前から期待と興奮に包まれていた。閉祭式では恒例のブロック長パフォーマンズが行われた。今年のはCUTIE STREEの「かわいだけじゃだめですか」に合わせたダンスが披露され、観客の盛り上がりは最高潮に達した。交流時間を間に挟んで行われた結果発表では、生徒自治会長から各部門の順位が発表され、発表のたびに歓声が沸き、肩を組んで跳ねたりする姿があちこちで見られた。総合優勝が発表された瞬間には、体育館中が大きな拍手と歓喜の声に包まれ、総合優勝に輝いた黄ブロックの生徒たちは全員が一丸となり喜びを分かち合っていた。生徒の熱意が溢れ出した今年の二高祭は、それぞれの心に残るものとなっただろう。

一高祭の思い出



編集後記

休刊のお知らせ

この度、一・二年生の部員が集まらず活動を続けることが困難となったため、甲府一高新聞はこの号をもって休刊することとなりました。昨年、私たちの代で創刊三百号記念号を発行し、一高新聞の歴史を伝えました。また、岐阜で行われた総文祭に参加し、全国の新聞部員との交流を通じて多くのことを学び、貴重な経験をさせていただきました。私たちは得た学びを紙面づくりに活かしながら、一高新聞ならではの「我がが精鋭」などの特集や白黒印刷などの伝統を守り続けてきました。私たちが発行してきた二高新聞を読んでいただき、本当にありがとうございました。

〈甲一新聞部員〉

高橋 玲衣 坂江 和香
山本 湊 伴野 朱香